大東亞文學者代表交驩座談會[[1]](#footnote-1)

出席者

滿洲國代表　Ｈ・バイコフ　　古丁　　小松　　爵青　　呉瑛　　山田清三郎

蒙彊代表　　恭佈札布　　和正華

北支代表　　錢稻孫　　　張我軍　　尤柄圻　　沈啓兂

中支代表　　周化人　　　潘序祖　　柳雨生　　丁雨林　　許錫慶　　周毓英　　龔持平

　　　　　　草野心平

朝鮮代表　　香山光郎　　辛島驍　　芳村香道　兪鎭午

通譯　　　　小竹武夫

本誌　　　　金村龍濟

大會の感銘

金村　　みなさまが、東京の大東亞文学者大會を終へて歸國の途中、我々の朝鮮にお立ちより下さいまして有難うございます。只今京城では多くの作家たちや、一般の文化人が首を長くして待つて居ります。

　長い旅でお疲れのところ、大變恐れ入りますが、この機會に車中の座談會を催して『綠旗』の誌上をかざらして頂き度う存じます。先づ紅一點の呉瑛さんから、どうぞ……

呉瑛　　残念ながら私は日本語が通じませんので、會議中の詳しい内容をその場ですぐにはよく判りませんでした。でも、あの大きな雰囲氣だけで、もう魂がゆすぶられるや[う]な感激にうたれました。あの時胸に刻みこまれた印象は何時までも消えるやうなことはないでせう。歸つたら勉強したいと思つてゐます。

古丁　　菊池先生の名議長ぶりで、會議は熱情と興奮の中で、しかも秩序正しく順調に運ばれて行きました。何といつても時間が餘りなかつたために、發言は、四、五分間で切り上げるといふ調子で物足りなさもあつたやうですが、それだけ簡潔な發言は熱と力がこもつてゐました。時限が來るとオモチヤの鈴を鳴らしますが、それがまた文學者會議らしい面白い趣向でしたね。

一同　　ハ、ハ、ハ……

古丁　　なごやかさと、緊張さの中に文學者の實感がこもつてゐてはつきりと信念をのべるのですから、一言一句がそのまま皆の胸に響いて來ます。僕が特に感激したのは朝鮮代表の香山先生の發言でした。あの嚴然とした態度も立派だつたが、その信念と熱がですね。恐らくは東京の文士もあれほどはつきりしたことは誰も云へなかつた所へ、ずばりと斬りこまれたのだから、實にあざやかな感激の一瞬でしたよ。

張我軍　　北京を發つときから、大體のことは想像してゐましたが、あんなに全東亞の文學者が一堂に會して、東亞の將來に關する文學精神を宣言し合つたのだから、本當の成果は今後に期するとしても、あの集つたといふことだけにも重大な意義があつたと思ひます。

山田　　滿洲代表の諸君がよくやつてくれたのには非常に嬉しかつた。さういへば失禮かも知れませんが、我々は何も遠いところから來たのではない、第二の主人役と云つた心がまへが云はず語らずのうちに出來てゐたのでせうね。滿洲の建國精神は日本の肇國精神とそのまゝ同一なる八紘一宇の大理想だと言明したのはよかつたですね。そのはつきりした態度がね。

伊勢神宮・古都の感激

金村　　伊勢神宮を參拜した時にお感じになつたことや、奈良とか京都のやうな古い日本の都を見学した時の御感想はどうですか。

爵青　　伊勢神宮を參拜させて頂いて、全く神々しい感激にうたれました。更に深く思ひましたことは、滿洲の建国大廟の御原神がここから源を發してゐるといふことです。日滿が一徳一心だといふことは、同じ神様を奉戴してゐるからであります。幽遠なる貴い歴史的な因緣にさかのぼる開闢神話に基いてゐるといふことは何とゆるぎない有難いことでせうか。この感激をば、私たちはあらゆる機會に話したのですが、どうも内地の記者たちは、この認識があまりないのか、少しも書き立てて呉れなかつたやうで甚だ心外に思ひましたよ。

小松　　全く同感ですね。日滿一徳のおほらかな精神は伊勢神宮から淵源してゐます。それが判らないなら、気の毒な話ではありませんか。滿洲國民としての我々は、この日本の古い神都を拜して、更に一層新しい感銘をもつて建國の精神に對する信仰の念を強くしました。

張我軍　　伊勢の神都に參り、奈良、京都の古い都を見て何時も感ずることは、信仰と云ふことと文化の歴史とが表裏してゐるといふことです。つまり、神話の理念と文化史とが渾然と一つになつてゐるといふ感じがしますね。それから、古代の日本と中国が、どれだけ文化交流の功を殘してゐるかといふことの證據をまざまざと見せられます。

　それにつけても、こんなふるい傳統にかがやく日本的な、東洋的な文化が、どれだけ、西洋的な文化に隱されてゐたか、毒されてゐたかがよく判ります。日本でも中国でも、今まではあまりにも西洋崇拜に傾いてゐました。古い文化の都に來て見るならば、誰でも一層反省されることがらだと思ひます。

古丁　　神社佛閣の建築文化について見ましても、晝も暗いやうな古木が鬱蒼としてゐる中に、あの簡素にして森嚴な美しさを永遠そのもののやうに保つてゐる。この神域に一足を入れただけでも自ら身も心もひきしまる思ひがします。

周毓英　　あの嚴肅にして幽玄なる環境に感嘆しました。それだから參拜する人々も自ら襟を正すやうになります。中国にもいろいろな信仰の對象があるのですが、日本のやうに國民全體が上下男女をあげて、何時も參拜する美風は少い。それに朝から、あんなに大勢の參拜者があるのには驚きました。

　日本の國民思想が、あらゆる外來思想の害毒を蒙りながらも、いざとなれば肇國の精神にかへる所以が判りました。

西洋的思想の驅逐

金村　　先程から、西洋的なものの害毒を言はれましたが、今度の大東亞戰爭と關係させてお話しねがひます。

周化人　　大東亞戰爭は、この東洋の天地から、西洋的なる自由主義、個人主義等の完全なる克服にある事は自明のことであります。全東亞を彼等の支配の壓迫から解[放]して、我々の楽園を先づ東亞共栄圏内に確立することであります。

　したがつて、最後の戰爭の段階は思想戰、文化戰となつて來ます。この大戰爭は、單に日本が米英と戰ふ戰爭ではない。全東亞の生命にかかはる戰爭であります。だから、東亞の各國家は共同の責任と義務と名誉にかけて、一致協力して勝ち抜かねばなりません。そのために我々文化人には、これから益々奮起して、あらゆる西洋的な思想謀略を撃滅すべき使命をになはわされてゐるのです。今度の大東亞文学者大會も、そのために思想的武装を一段固くしたことだと、一言にしてはいへると思ひます。

龔持平　　それだからこそ、この大東亞戰爭は建設戰であり、新文化の創造戰だといふことが出來る。すなはち思想文化の建設戰である。ふるき惡しきものこそ、破壊すべきですが、新しい東洋的世界觀による世界文化再發足のための聖なる建設戰である。我々文學者はもとより、あらゆる學者、たとへば哲學者、科學者が、東洋文化新建設といふ唯一最高の目的の下に、共同工作を惜しんではならないと思ふ。

潘序祖　　建設戰といふことは、みなさんのお話の通りであります。この場合大切なことはとにかく戰爭には勝たねばならぬといふのつぴきならぬ生命的な慾求が、戰ふ時代の文化意識、文學情熱の發足點でなければならない。文化建設といつても、それが彈丸の飛んで來ない所で何か呑気な美しい文學を書き、文化を論ずることでは斷じてないのでありますし、さういふ意味では建設の「戰ひ」ではないのであります。勝つためのすべての人間活動が文化の今日の命題であり、そのこと自體が新しい東洋平和の文化的母胎となるのであります。大東亞戰戰爭にかりにも我々の東亞が勝ちぬけなかつたとしたらば、どうであらうか。我々の文化はその時、果してどんな運命を辿るであらうか。だからこそ文化も戰ふのである。文化は戰ふべきであるのだ。

アジアの文藝復興

金村　　それでは、文藝上の立場から、やや專門的なことについて、新らしい大東亞文學建設についての方法ですね。たとへば、こんなものを書きたいといつたことも含めまして……

許錫慶　　さうですね。今度の大會でそこまでつつこんで話し合へばよかつたですが、まあ目的と理想がはつきりした以上、その目的意識からすべての歴史的事實が書かれて行くでせう。大きな希望があれば自然と奮ひ立つ精神ですね。大東亞の英雄的建設精神、ロマンチムといつたものが興らなければならない。

　それから言ひおくれましたが、これは大會への希望条件ですが、來年は必ず南洋の作家も呼ぶやうに。それから會場のことですが、東京の一所でなしに、もつとゆつくりした日程で各地でやればどんなものか、その地方の文學者とももつと親しくしあつてですね。

小松　　新しい東亞文學のためには、新しい東洋的世界觀が樹立されなければなりません。思想戰といふことは世界觀の戰爭であり、文學にあつての東洋の新世界觀は、東洋人の血の中に脈うつてゐる人生觀をも新しくさせるでせうし、それが我々の文學の上に表現されて來るやうになると思ひます。

沈啓兂　　一つの東洋的理想は、一つの普遍的な東洋的性格をもつやうになりませう。それぞれの國民生活の特殊性は勿論あつて、文學の上にはこれが自然と生かされるでせうが、それはあくまでも本質が東洋的性格に約束されてゐるもので、西洋的なものとは根本的に違つてゐます。個人としての個人主義、東洋にあつての國家としての個人主義をすてること、空虚な議論は愼んで大同結束して一大東亞文學を樹立すべきです。

柳雨生　　今度の大會の目的も、大會が催された運動自體も、アジアに於ける新しい文藝復興の運動であると斷言することが出來ます。復興といふのは東亞の歴史がもつてゐた文學財の上に、この時代の新しい東亞文學を添へて、更に偉大なる文學を建設するといふ意味であります。我々の過去のものが、すべてそのままよいといふわけではありません。そのよいもの貴いものはあくまで保全し發揮するし[、]すてるべきは惜しみなく棄てなければなりません。進んでは外國のものでもよいものは批判的に取り入れる勇気も必要でせう。その根本の流れはやはり東洋的なものであることは云ふまでもない。その本質は自然的にすでに東洋的であるのですから。

尤柄圻　　文學の題材はどんなものでもいいと思ふ。要するに創作の態度が大切だ。その文學に對する東洋的な心がまへさへしつかりしてゐたらよいと思ふ。目的と精神さへはつきりしてゐれば、創作の素材とか主題はどれをもつて來ても、その情熱の火にとけこんでしまふわけです。文學の内容も形式も、自然と多種多様になつて行くでせう。

　私がうらやましいと思つたのは、我々には[ま]だ「文報」のやうな強い組織がないことである。朝鮮にも立派な文人協會が出來てゐるさうだが、我々も今度そんなものが出來たらと思つてゐる。そして、各國並びに各地の文學團體が恒常的に連絡し合つて行きたいものだと思ふ。東京の「文報」が先づ指導的になつて、これらの連絡と援助の任に當つてくれたらと希望してやまない。このやうなことが大會で具體的に論議されなかつたことは殘念でありました。

日本の作家と自然について

金村　　日本作家に會つた感じとかと、或は自然の風物に對する印象はどうですか。

バイコフ　　日本の自然は全く豫想したより以上にすばらしい山であつた、清い流れであつた。こんな美しい自然の中に住んでゐる日本人は本當に幸福であると思つた。

　私は言葉が判らんので詳しいことは、この香さんに飜譯してもらつて大意だけは知つたが、東亞の作家が顔を合せ、手を握り合つたといふことだけでも、歴史上の奇蹟である。私は東京でも銀座の見物をしないまま歸つた。都會よりも、人ごみよりも、私には自然の友がより大切である。箱根の山も一番高い所まで見て來ました。七十二歳ですが、昔のやうに虎をしめる元気がないだけで山登りは大好きです。

　日本人はみんな親切な人々だと思つた。あんなに美しい自然の中に育つたのだから、人も美しくなつてゐるのだらう。

丁雨林　　作家はやつぱりお互ひがすぐ親しくなり信じ合へるやうになりますね。作家冥利といへませうね。やはり人間同が仲よくなるより、本當の力になるものはないと思ひます[。]今度の文學者大會は我田引水のやうですが、どんな外交よりもよかつたと思ひます。

和正華　　東亜の盟主日本をこの度訪問することが出來て非常に嬉しく思ひます。さすがに米英をやつつけてゐる大國民だといふことをしみじみ感じました。東亞の諸民族を指導するだけの、その文化とその襟度に對して一層の信頼と尊敬の念を深くしました。

　我々は今後益々手足一體となつて思想戰の第一線に立ち、東亞人本然の美徳を文學に於いて復興したいと誓つて居ります。

草野　　朝鮮の空の色の餘りにも美しい青さは、魂が吸ひとられるやうな澄み方ですね。青い木がだんだん裸の山をかくすやうになつてゐて、そこにも新しい朝鮮の建設がみられて嬉しかつた。朝鮮の作家たちが大會で發言したことや、團結的な行動は眞に立派なもので、東京の文士たちもみな賛嘆してゐたが、どこの代表よりもはつきりして、しつかりしてゐました。内鮮の文化人が本當に一體となつて、新しい朝鮮のため懸命になつてゐる有様を見て、なるほどありがたいことだと感激しました。

朝鮮代表は語る

金村　　滿、蒙、支何れの代表からも、朝鮮代表のみなさまをほめてゐますから、自慢話でも簡單にして頂きませうか。

芳村　　簡單にとは、えらい虐待ですね。

金村　　京城に行つてゆつくり伺ふ、あとの樂しみにとつて置きたいのですよ。

香山　　全會議を通じて、一番強調されたことは個人主義の清算でありましたね。

芳村　　みな情熱的で、氣持が自然とひきしまる感じでしたね。

香山　　アジア的傳統に還れと叫び、或る人はその基礎の上に立てと話してゐました。そして、大東亞新文學の根本は日本において發見するものである。つまり、支那インドの古い□□をもつて、大東亞の指導的精神を發見するものは日本であるといふことがはつきり判りましたね。

兪　　日本を大東亞の指導者とするといふことは、旣に理論を越えて、實際の雰囲氣ではつきりしてゐた。

芳村　　あの大會において、協力精神は充分に現はれてゐました。問題はこれからの實踐だけです。

兪　　私が言つたのは日本の代表の一部としての立場からでありましたが、日本語を全東亞に速急に普及することは、單に日本だけの必要でなく、向ふの自國の文化を高めるために必要不可缺のことだといふことであつたのです。

香山　　實際にそれより方法がないのだから、自然にさうなるのだし、さうしなければならない。

兪　　たとへば、大東亞精神の樹立といふことにしても、始めは色々なことを違つた表現で云つてゐましたが、だんだんやつて行くうちに自然と一致した意見になつてしまひましたね。

芳村　　つまり、大東亞文学者が、行くべき道はもうはつきりして來た。昔のやうにそんなことが、文學として出來るとか、出來ないとか、そんな空論を一切吹き飛ばしてしまつて、とにかくやつて行くのだといふ決意が一致して來ましたね。

香山　　我々は最初から、いや行く前からもつてゐた信念と態度をそのまま披瀝しただけですが、案外注意をひいたらしいですね。

芳村　　内容は大體みな同じですが、その熱心さと、覺悟がさうさせ[た]のですね。

香山　　錢稻孫氏や周化人氏は、自分たちが歸國したら、これまで以上に、この戰爭に必ず勝つといふことを筆をふるつて書くのだと、二、三回もくりかへして居られましたよ。

兪　　あの滿洲の呉瑛さんは紅一點だつたので、方々で人氣者だつたのですが、本當にいい人ですね。東京の評判は貞淑な婦人作家として大したものでしたが、あんな女流作家は朝鮮にはどうですかね。

香山　　東京でも見られない人格者だと云はれましたからね。朝鮮の女流であんな所へ行つてあんな立派な態度をとれる人があるかどうか……

辛島　　約束と同じやうに、我々朝鮮側は日本文學者の一部として　天皇歸一の文學として進んで行くやうになるでせう。日本語の普及がしばしば言はれましたが、我々はすでに實行してゐますから、もつともつと國語文學に全力を注いで行き、進んでは日本語を東亞の共通語とするために努力すべきだと思ひます。我々の暗默の誓ひはこの二大中心點でありました。

　みなが一つの心になつて固い覺悟をもつてゐたために、謹嚴な態度ですべてに臨みましたが、伊勢大廟の時などは殆ど模範的だつたと思ひます。

　今度は釜山まで日常の同志が、親しく連絡して迎へに來て呉れ、京城で交驩會がされるのはありがたいことだと思ひます。

香山　　この際、一層發奮してやりませう。

金村　　お勞れのところ、ほんとうにありがたうございました。

（時に十四日の下り「あかつき」は、すでに大田をすぎて走つてゐた）

1. 『緑旗』1942年12月号。11月14日、大東亞文学者大会を終えて帰国する列車あかつきの車中で開催された。 [↑](#footnote-ref-1)